

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|---|------------|-----------|-----------|---------|--------|---|
| 事業名 | 砂防 | | 路河川名等 | (砂)山吹沢 | | | | |
| 事業毎の通番 | 1 | 市町村名 | 小県郡長和町 | 箇所名(ふりがな) | 小茂谷(こもがや) | | | |
| 事業目的 | 山吹沢は、長野県東部の長和町南部に位置し、保全対象として人家8戸及び第一次緊急輸送路である国道152号を含む流域面積0.43km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | | | | | | |
| しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり) | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | | | | |
| 関連する事業、計画等 | | | | | | | | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家8戸、(国)152号、町道 | | | | | | | |
| 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 3年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | | | |
| 完成年度(見込み) | 2024年度(令和6年度) | 費用対効果 | 1.8 | 国庫 | その他 | 県債 | 一般財源 | |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 1基 渓流保全工 L=80m | | | 250,000 | 125,000 | 100,000 | 25,000 | |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | 人家、重要交通幹線などの保全 | | | | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | 災害に強い地域づくり | | | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○保全人家 : 8戸 ○保全公共施設 : 国道152号、町道 ○保全重要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 国道152号(第一次緊急輸送路) | | | | | 評価 | B |
| | 重要性 | ○災害履歴 : 令和元年東日本台風(2019年) ○交通影響 : 影響度大(国道152号) ○位置付け : 長野県及び長和町地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流、緊急輸送路) | | | | | 評価 | A |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C) : 1.77 ○事業期間 : 3年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし) | | | | | 評価 | A |
| | 緊急性 | ○地形地質 : 地質が脆弱(火山堆積物) ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 11°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり | | | | | 評価 | A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(長和町より要望あり) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(防災訓練の実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | | | 評価 | A |
| 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家8戸及び緊急輸送路等が立地しており、近年の災害履歴から、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | | 採択状況 | 総合評価 | | | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | | ○ | A | | | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | — | 評価の決定 | 事業着手 | | | |

位置図

流域概要図

航空写真

事業概要説明図表

①保全対象

②不安定土砂堆積状況

③土砂流出状況

| | |
|----------------------------------|---|
| ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 山吹沢は、長野県東部の長和町南部に位置し、保全対象として人家8戸及び第一次緊急輸送路である国道152号を含む流域面積0.43km ² の土石流危険渓流Iである。令和元年東日本台風により土石流災害が発生し、災害関連緊急砂防事業等に着手している。流域内は渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、災害関連緊急砂防事業等と一体となり、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 |
| ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 令和元年東日本台風による豪雨により土石流が発生し、住宅に被害があったことから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。 |
| ③事業説明等の経緯 | 関係者(地元住民、地権者等)に事業の目的・効果等について説明済み。(R2年2月) |
| ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | — |
| ⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮 | 気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。 |
| ⑥人口減少・少子高齢化 を踏まえた地域活性化への影響と配慮 | 本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道152号等が保全され、物流、人流が確保される。 |
| ⑦その他 | 砂防指定地指定済み(R3.4.7) |

| | | | |
|------------------|--|-------------|---------------------------------------|
| 事後・再評価からのフィードバック | 本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い事業代表地点透過型砂防堰堤を検討している。 | 事業代表地点の緯度経度 | 北緯:N 36° 10' 31" 東経:E 138° 14' 30" |
|------------------|--|-------------|---------------------------------------|

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | |
|------------------------|---|---|------------|-----------|-----------------------|
| 事業名 | 砂防 | | 路河川名等 | (砂)横立沢 | |
| 事業毎の通番 | 2 | 市町村名 | 平谷村 | 箇所名(ふりがな) | 起畑(おこしばた) |
| 事業目的 | 横立沢は、長野県南部の平谷村に位置し、保全対象として人家2戸、第1次緊急輸送路である国道153号及び、村の重要な水道施設を含む土石流危険渓流である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、土石流が発生した場合、国道153号や水道施設へ影響が生じ、水道施設が被災した場合、平谷村役場や、道の駅(指定避難場所)、温泉施設、人家160戸に支障が生じるおそれがある。このため砂防堰堤を施工し土砂災害を未然に防止する。 | | | | |
| しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備) | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | |
| 関連する事業、計画等 | | | | | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家2戸、起畑浄水場、国道153号(第1次緊急輸送路)、村道、橋梁1基 | | | | |
| 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 8年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) |
| 完成年度(見込み) | 2029年度(令和11年度) | 費用対効果 | 1.6 | 国庫 | その他 県債 一般財源 |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 1基 | | | 450,000 | 225,000 80,000 45,000 |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | ・人家、指定避難施設、重要交通幹線などの保全 | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | ・災害に強い地域づくり | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○保全人家 : 2戸 ○保全公共施設 : 国道153号(第1次緊急輸送路)、起畑浄水場、村道、橋梁1基 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 国道153号(第1次緊急輸送路) | | | 評価 B |
| | 重要性 | ○災害履歴 : 現地に崩壊履歴あり ○交通影響 : 影響度大(国道153号(第1次緊急輸送路)) ○位置付け : 地域防災計画上の位置付けあり(緊急輸送路、土石流危険渓流I) | | | 評価 A |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C) : 1.60 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤位置について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし) | | | 評価 A |
| | 緊急性 | ○地形地質 : 地質が脆弱(花崗岩質) ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 13°・整備率0% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域内あり | | | 評価 A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(平谷村要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(防災訓練の実施) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | 評価 A |
| 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家2戸及び緊急輸送路、水道施設等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | 採択状況 | 総合評価 | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | ○ | A | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | — | 評価の決定 | 事業着手 |

【位置図、平面図、構造図等】

位置図

平谷村役場 起畑水道の供給エリア

事業概要説明図表

1 起畑浄水場
2 緊急輸送路(第一次)国道153号
3 起畑水道供給施設

平谷村役場 道の駅 信州平谷 温泉施設

流域概要図

(砂)横立沢

(国)153号(第一次緊急輸送路線)

砂防堰堤 1基

起畑取水施設

流域状況

起畑浄水

航空写真

流域面積 A=0.55km²

砂防堰堤 1基

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景

横立沢は、長野県南部の平谷村に位置し、保全対象として人家2戸、第1次緊急輸送路である国道153号及び、村の重要な水道施設を含む土石流危険渓流である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、土石流が発生した場合、国道153号や水道施設へ影響が生じ、水道施設が被災した場合、平谷村役場や、道の駅(指定避難場所)、温泉施設、人家160戸に支障が生じるおそれがある。

②地域からの要望経緯及び地域の関わり

平成27年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家等が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。

③事業説明等の経緯

今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。

④他事業・プロジェクトとの整合、関連

—

⑤地球温暖化への配慮
自然環境・生活環境への影響と配慮

気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。

⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮

本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路である国道153号等が保全され、物流、人流が確保される。

⑦その他

砂防指定地申請予定

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透透型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 35° 19' 58"
東経:E 137° 38' 34"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | | |
|------------------------|---|---|------------|-----------|------------------------|---|
| 事業名 | 砂防 | | 路河川名等 | (砂)獅子沢 | | |
| 事業毎の通番 | 3 | 市町村名 | 長野市 | 箇所名(ふりがな) | 往生地(おうじょうじ) | |
| 事業目的 | 獅子沢は、長野市西長野地区に位置し、保全対象として人家623戸、第2次緊急輸送路である主要地方道長野信濃線、避難所(信州大学)及び、浄水場を含む流域面積0.09km ² の土石流危険渓流1である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | | | | |
| しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 県土の強靱化(いのちを守り育てるづくり) | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | | |
| 関連する事業、計画等 | | | | | | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家623戸、長野市水道局往生地浄水場、信州大学教育学部、主要地方道長野信濃線 | | | | | |
| 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 8年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | |
| 完成年度(見込み) | 2029年度(令和11年度) | 費用対効果 | 73.0 | 国庫 | その他 県債 一般財源 | |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 1基 | | | 600,000 | 300,000 240,000 60,000 | |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | 人家、重要交通幹線などの保全 | | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | 災害に強い地域づくり 浄水場の保全に伴う給水人口約60,000人への影響軽減 | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○人家戸数 : 623戸 ○公共施設数 : (主)長野信濃線、信州大学教育学部、長野市水道局往生地浄水場 ○要配慮者利用施設数 : なし ○避難場所、避難路 : 信州大学教育学部、(主)長野信濃線(第2次緊急輸送路) | | | 評価 | A |
| | 重要性 | ○過去の災害履歴 : なし ○交通遮断による地域経済への影響 : 第2次緊急輸送路が遮断、善光寺への観光道路 ○地域防災計画の位置づけ : 長野県及び長野市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流(1ランク)・土砂災害防災法警戒区域) | | | 評価 | B |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C) : 73.04 ○事業期間 : 8年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤位置について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整中 | | | 評価 | A |
| | 緊急性 | ○流域の地形、地質 : 地質が脆弱 ○流域の植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 18°・整備率0% ○土砂災害防止法 指定区域 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域あり | | | 評価 | A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知(地元区長等) ○地域の取り組み : 協力的である(地元住民から要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップ作成) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | 評価 | A |
| 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家623戸及び避難所、緊急輸送路等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | 採択状況 | 総合評価 | | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | ○ | A | | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | — | 評価の決定 | 事業着手 | |

位置図

流域概要図

事業概要説明図表

保全対象

不安定土砂堆積状況

事業周辺環境

| | |
|--------------------------------|---|
| ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 獅子沢は、長野市西長野地区に位置し、保全対象として人家623戸、第2次緊急輸送路である主要地方道長野信濃線、避難所(信州大学)及び、浄水場を含む流域面積0.09km ² の土石流危険渓流1である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 |
| ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 平成19年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家等が存在することから、砂防事業実施に係る要望を受けている。 |
| ③事業説明等の経緯 | 関係者に事業の目的・効果等について説明済(R2年3月) |
| ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | なし |
| ⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮 | 気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。 |
| ⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮 | 本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、緊急輸送路が保全され、物流、人流が確保される。 |
| ⑦その他 | 〇コスト削減、建設副産物削減、工法検討等について記載 |

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透透型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 138° 10' 36" 49
東経:E 36° 39' 58" 66

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | | | | |
|----------|------------------------|---|-------|------------|-----------|-----------|---------|--------|
| 事業名 | | 砂防 | | 河川名等 | | 太田沢 | | |
| 事業毎の通番 | | 4 | 市町村名 | 長野市 | 箇所名(ふりがな) | 安茂里(あんもり) | | |
| 事業概要 | 事業目的 | 太田沢は、長野県北部の長野市に位置し保全対象として人家218戸、第1次緊急輸送路である国道19号、JR信越本線、市道、公民館等を含む流域面積1.0km ² の土石流危険渓流1である。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | | | | | |
| | しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備) | | 事業実施の根拠法令等 | | 砂防法 | | |
| | 関連する事業、計画等 | | | | | | | |
| | 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家218戸、事業所7施設、国道19号、JR信越本線、市道 | | | | | | |
| | 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 7年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | | |
| | 完成年度(見込み) | 2028年度(令和10年度) | 費用対効果 | 24.1 | 国庫 | その他 | 県債 | 一般財源 |
| | 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 1基 | | | 500,000 | 250,000 | 200,000 | 50,000 |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | ・人家、重要交通幹線などの保全 | | | | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | ・災害に強い地域づくり | | | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | <ul style="list-style-type: none"> ○保全人家 : 218戸 ○保全公共施設 : JR信越本線、国道19号、市道、公民館 ○保全要配慮者利用施設 : なし ○避難場所、避難路 : 国道19号(第1次緊急輸送路) | | | | | 評価 | A |
| | 重要性 | <ul style="list-style-type: none"> ○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度大(国道19号 JR信越本線) ○位置付け : 長野県及び長野市地域防災計画上の位置付けあり | | | | | 評価 | B |
| | 効率性 | <ul style="list-style-type: none"> ○費用対効果(B/C) : 24.14 ○事業期間 : 7年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤位置について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整中(保安林なし) | | | | | 評価 | A |
| | 緊急性 | <ul style="list-style-type: none"> ○地形地質 : 地質が脆弱(花崗岩質) ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 9.6°・整備率19.9% ○危険地区 : 土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域あり | | | | | 評価 | A |
| | 計画熟度 | <ul style="list-style-type: none"> ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(安茂里地区治山砂防治水対策委員会より要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(地区防災マップが策定されている) ○OPDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | | | 評価 | A |
| | 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家218戸及び緊急輸送路、鉄道等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | | 採択状況 | 総合評価 | | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | | ○ | A | | | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | - | | 評価の決定 | 事業着手 | | |

| | | | | |
|------------------|--|--|--------------------------------------|--|
| 事業概要説明図表 | 位置図 | 流域概要図 | | |
| | 保全対象 | 荒廃状況 | | |
| | 小路公民館 | 全景写真 | | |
| | (国)19号、JR信越本線 | | | |
| 事業周辺環境 | ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 本渓流は、長野県北部の長野市に位置する土石流危険渓流1である。保全対象には人家218戸、事業所7施設、第1次緊急輸送路である国道19号、JR信越本線、市道、公民館等が含まれている。渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | |
| | ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 令和3年6月に地区の関係者等により、安茂里地区治山砂防治水対策委員会が設立され、地区防災の観点から、土石流・流木対策について、強く要望を受けている。 | | |
| | ③事業説明等の経緯 | 関係者に事業の目的・効果等について説明済み。(H28年6月) 今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。 | | |
| | ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | - | | |
| | ⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮 | 気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限にするため、環境調査を実施し、その結果に基づく環境対策を講じた上で、工事を行う予定。 | | |
| | ⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮 | 本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。また、基幹交通である国道19号、JR信越本線等が保全され、物流、人流が確保される。 | | |
| | ⑦その他 | 砂防指定地申請予定 | | |
| 事後・再評価からのフィードバック | 本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。 | 事業代表地点の緯度経度 | 北緯:N 36° 6' 37" 東経:E 138° 16' 36" | |

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | |
|------------------------|---|---|------------|-----------|------------------------|
| 事業名 | 砂防 | | 路河川名等 | (砂)唐沢 | |
| 事業毎の通番 | 5 | 市町村名 | 長野市 | 箇所名(ふりがな) | 山新田(やましんでん) |
| 事業目的 | 唐沢は、長野県北部の長野市に位置し、保全対象として人家108戸、要配慮者施設である特別養護老人ホーム、公民館を含む流域面積A=0.83km ² の土石流危険渓流Iである。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は多数の礫を含む不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | | | |
| しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり) | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | |
| 関連する事業、計画等 | | | | | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家108戸、要配慮者施設(特別養護老人ホーム) 公民館、市道 | | | | |
| 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 9年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) |
| 完成年度(見込み) | 2030年度(令和12年度) | 費用対効果 | 11.0 | | 国庫 其他 県債 一般財源 |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 2基 | | | 900,000 | 450,000 360,000 90,000 |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | 人家、重要交通幹線などの保全 | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | 災害に強い地域づくり | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○保全人家 : 108戸 ○保全公共施設 : 公民館(2箇所)、市道 ○保全要配慮者利用施設 : 特別養護老人ホーム ○避難場所、避難路 : なし | | | 評価 A |
| | 重要性 | ○災害履歴 : なし ○交通影響 : 影響度中(市道) ○位置付け : 長野県及び長野市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流) | | | 評価 B |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C) : 10.98 ○事業期間 : 9年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤形式について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林なし) | | | 評価 A |
| | 緊急性 | ○地形地質 : 地質が脆弱(花崗岩) ○流域植生 : 倒木多数あり ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 12°・整備率0% ○危険地区 : 土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり | | | 評価 A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(長野市より要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民参加型の事業(ハザードマップが策定されている) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | 評価 A |
| 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家108戸及び要配慮者利用施設等が立地しているため、速やかな土砂災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | 採択状況 | 総合評価 | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | ○ | A | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | — | 評価の決定 | 事業着手 |

位置図



流域概要図



航空写真



不安定土砂堆積状況



事業概要説明図表

保全対象



事業周辺環境

| | |
|--------------------------------|---|
| ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 唐沢は、長野県北部の長野市に位置し、保全対象として人家108戸、要配慮者施設である特別養護老人ホーム、公民館を含む流域面積A=0.83km ² の土石流危険渓流Iである。流域内は、渓床勾配が急で渓床部は多数の礫を含む不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 |
| ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 平成19年度に土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家等が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。 |
| ③事業説明等の経緯 | 今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。 |
| ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | — |
| ⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮 | 気候変動により発生確率が高まる土砂災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。 |
| ⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮 | 本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土砂災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。 |
| ⑦その他 | 砂防指定地申請予定 |

事後・再評価からのフィードバック

本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 36' 07"

東経:E 138° 17' 6"

（様式1-2）新規評価シート

建設部 砂防課

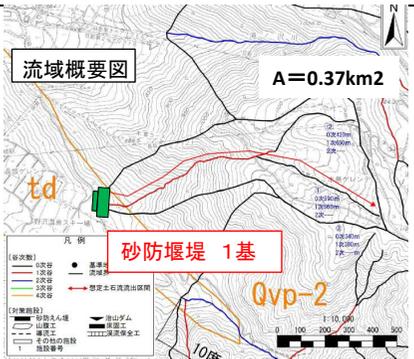
| | | | | | | | | | |
|------------------------|--|--|-----|------------|----------|------|---------|--------|---|
| 事業名 | 砂防 | | | 路河川名等 | (砂)内山沢 | | | | |
| 事業毎の通番 | 6 | 市町村名 | 須坂市 | 箇所名(ふりがな) | 豊中(とよなか) | | | | |
| 事業目的 | 内山沢は、長野県北部の須坂市に位置し、保全対象として市の指定避難所(特別養護老人ホーム)、要配慮者利用施設(宅養老所、特別養護老人ホーム)、人家37戸及び公共施設(豊丘町公会堂)を含む流域面積0.14km ² (内山沢B)・0.20km ² (内山沢C)の土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、不安定な土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | | | | | | | |
| しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備) | | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | | | | |
| 関連する事業、計画等 | | | | | | | | | |
| 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家37戸、指定避難所(特別養護老人ホーム)、要配慮者利用施設(宅養老所、特別養護老人ホーム)、公共施設(豊丘町公会堂)、一般県道五味池高原線、市道、橋梁3橋 | | | | | | | | |
| 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 9年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | | | | |
| 完成年度(見込み) | 2030年度(令和12年度) | 費用対効果 | 4.8 | | 国庫 | その他 | 県債 | 一般財源 | |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 2基 | | | 800,000 | 400,000 | | 320,000 | 80,000 | |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | ・人家、指定避難所、要配慮者利用施設、および生活道路の保全 | | | | | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | ・災害に強い地域づくり | | | | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○保全人家 : 37戸 ○保全公共施設 : 生活道路(一般県道五味池高原線、市道) ○保全要配慮者利用施設 : 宅老幼所、特別養護老人ホーム ○避難場 : 特別養護老人ホーム(指定避難所) | | | | | | 評価 | A |
| | 重要性 | ○災害履歴 : 小規模土石流(令和元年東日本台風) ○交通影響 : 影響度大(一般県道五味池高原線、市道) ○位置付け : 長野県及び須坂市地域防災計画上の位置付けあり(土石流危険渓流Ⅰ、避難所) | | | | | | 評価 | A |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C) : 4.82 ○事業期間 : 9年間 ○工法等の比較検討 : 堰堤位置について比較検討あり ○流域の総合調整 : 調整済(保安林・気象動植物の生育なし) | | | | | | 評価 | A |
| | 緊急性 | ○地形地質 : 地質が脆弱(第3紀層) ○流域植生 : 放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率 : 13°・整備率0% ○危険地区 : 土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり | | | | | | 評価 | A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である(須坂市より要望あり) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 事業計画に関連した地域における独自の取り組みを実施(防災講演会) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | | | | 評価 | B |
| 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家37戸及び要配慮者利用施設、避難所等が立地しているため、速やかな土石流災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | | 採択状況 | 総合評価 | | | | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | | ○ | A | | | | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | - | | 評価の決定 | 事業着手 | | | |

| | | | | |
|------------------|---|--|---------------------------------------|--|
| 事業概要説明図表 | 位置図 | 流域概要図 | | |
| | 全景写真 | | | |
| | ①指定避難所(特別養護老人ホーム) | ②荒廃状況 | ③転石状況 | |
| | | | | |
| 事業周辺環境 | ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 内山沢は、長野県北部の須坂市に位置し、保全対象として市の指定避難所(特別養護老人ホーム)、要配慮者利用施設(宅養老所、特別養護老人ホーム)、人家37戸及び公共施設(豊丘町公会堂)を含む流域面積0.14km ² (内山沢B)・0.20km ² (内山沢C)の土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、不安定な土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | |
| | ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 平成19年度に土石流災害防止法に基づく土石流災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家や指定避難所等が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。 | | |
| | ③事業説明等の経緯 | 関係者に事業の目的・効果等について説明済み。今後、流域に関係する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。 | | |
| | ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | - | | |
| | ⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮 | 気候変動により発生確率が高まる土石流災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。 | | |
| | ⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮 | 本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土石流災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また生活道路が保全され、物流、人流が確保される。 | | |
| | ⑦その他 | 砂防指定地申請予定 | | |
| 事後・再評価からのフィードバック | 本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透型砂防堰堤を検討している。 | 事業代表地点の緯度経度 | 北緯:N 36° 38' 31" 東経:E 138° 20' 41" | |

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

| | | | | | | | | | |
|--------------|------------------------|---|------|------------|-----------|----------|---------|--------|---|
| 事業名 | | 砂防 | | 路河川名等 | | (砂)水無の沢 | | | |
| 事業毎の通番 | | 7 | 市町村名 | 野沢温泉村 | 箇所名(ふりがな) | 豊郷(とよさと) | | | |
| 事業概要 | 事業目的 | 水無の沢は、長野県北郡の野沢温泉村に位置し、保全対象として人家257戸、避難場所である小学校のほか、要配慮者施設である特別養護老人ホーム、小学校、中学校等を含む流域面積0.37km ² の土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、崩壊地形が認められるとともに、渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | | | | | | | |
| | しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け | 4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり) | | 事業実施の根拠法令等 | 砂防法 | | | | |
| | 関連する事業、計画等 | なし | | | | | | | |
| | 保全対象・範囲 受益対象・範囲 | 人家257戸、指定避難場所(小学校)、要配慮者施設(特別養護老人ホーム、小学校、中学校等)、役場、県道、村道 | | | | | | | |
| | 着手年度 | 2022年度(令和4年度) | 事業期間 | 7年間 | 事業費(千円) | 財源内訳(千円) | | | |
| 完成年度(見込み) | 2028年度(令和10年度) | 費用対効果 | 76.8 | | 国庫 | その他 | 県債 | 一般財源 | |
| 全体事業内容(主な工種) | 砂防堰堤 1基 | | | 500,000 | 250,000 | | 200,000 | 50,000 | |
| 事業効果 | 直接的効果(定量的・定性的) | 人家、指定避難施設、重要交通幹線などの保全 | | | | | | | |
| | 間接的効果(定量的・定性的) | 災害に強い地域づくり | | | | | | | |
| 評価の視点 | 必要性 | ○保全人家：257戸 ○保全公共施設：(主)飯山野沢温泉線、役場、小学校、中学校 他 ○保全要配慮者利用施設：特別養護老人ホーム、老人福祉センター、小学校、中学校 ○避難場所、避難路：小学校(校庭)、(主)飯山野沢温泉線及び(一)野沢上塚(停線)(第二次緊急輸送路) | | | | | | 評価 | A |
| | 重要性 | ○災害履歴：なし ○交通影響：影響度大(主)飯山野沢温泉線、(一)野沢上塚(停線) ○位置付け：長野県及び野沢温泉村地域防災計画上の位置づけあり(土石流危険渓流) | | | | | | 評価 | B |
| | 効率性 | ○費用対効果(B/C)：76.8 ○事業期間：7年間 ○工法等の比較検討：堰堤位置について比較検討あり ○流域の総合調整：調整済(保安林なし) | | | | | | 評価 | A |
| | 緊急性 | ○地形地質：脆弱な地質(火山堆積物) ○流域植生：放置林 ○平均渓床勾配・土砂整備率：16.3°・整備率0% ○危険地区：土石流災害防止法に基づく土石流災害特別警戒区域あり | | | | | | 評価 | A |
| | 計画熟度 | ○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である(野沢温泉村・地元より要望あり) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民参加型の事業(避難訓練が実施されている) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：再評価 課題等整理表 整理番号:3-3-9 | | | | | | 評価 | A |
| | 所管課の意見 | 当該渓流の保全対象には人家257戸及び要配慮者利用施設、避難所等が立地しているため、速やかな土石流災害対策が必要であり、事業着手が妥当であると判断する。 | | | | 採択状況 | 総合評価 | | |
| 政策評価室の意見 | 所管課の意見が妥当と判断する。 | | | | ○ | A | | | |
| 県の評価案 | 事業着手 | 評価監視委員会意見 | - | | 評価の決定 | 事業着手 | | | |

| | | | |
|------------------|---|---|---------------------------------------|
| 位置図 |  | | |
| |  | | |
| 安全対象 |  | | |
| 事業概要説明図表 | ①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景 | 水無の沢は、長野県北郡の野沢温泉村に位置し、保全対象として人家257戸、避難場所である小学校のほか、要配慮者施設である特別養護老人ホーム、小学校、中学校等を含む流域面積0.37km ² の土石流危険渓流Ⅰである。流域内は、崩壊地形が認められるとともに、渓床部は不安定土砂が堆積しており、今後の豪雨等により土石流が発生する危険性がある。このため、砂防堰堤を施工し土石流災害を未然に防止する。 | |
| | ②地域からの要望経緯及び地域の関わり | 平成21年度に土石流災害防止法に基づく土石流災害警戒区域等を指定し、警戒区域内に人家が存在することから、砂防事業の実施に係る要望を受けている。 | |
| | ③事業説明等の経緯 | 関係者に事業の目的・効果等について説明済み。今後、流域に関する地元住民を対象とした計画説明会等を実施する予定。 | |
| | ④他事業・プロジェクトとの整合、関連 | - | |
| | ⑤地球温暖化への配慮 自然環境・生活環境への影響と配慮 | 気候変動により発生確率が高まる土石流災害を未然に防ぐため、ハード対策を推進する。事業に伴う貴重動植物等への影響を最小限に工事を行う予定。 | |
| | ⑥人口減少・少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮 | 本事業により、地域住民の安心・安全を確保するとともに、災害に強い地域づくりを推進することで、地域防災力の向上が期待される。土石流災害を防止し、住環境及び避難所等の安全・安心を確保することにより、集落の人口減少の抑制に寄与する。また、重要路線である(主)飯山野沢温泉線等が保全され、物流、人流が確保される。 | |
| | ⑦その他 | 砂防指定地申請予定 | |
| 事後・再評価からのフィードバック | 本計画においては、流域内の状況を鑑み、流木対策の効果が高い透過型砂防堰堤を検討している。 | 事業代表地点の緯度経度 | 北緯:N 35° 55' 02" 東経:E 138° 27' 18" |